【港区】

港区と森との出会い
「みなと区民の森づくり」

都心の港区では、あきる野市から約20haの市有林を借り、区民が間伐作業など森の手入れを行う、「みなと区民の森づくり」事業を2007年から行っています。区民の森は、CO_2をたくさん吸収する元気な森に生まれ変わり、森から出た間伐材は、区民の学校や保育園、環境学習施設・エコプラザの内装、家具などに使われています。

全国に広がる「みなとモデル」

森との関わりから、港区と全国の森林を持つ市町村を結ぶネットワークが広がり、2009年の「みなと森と水サミット」では、地球環境のために、ともに木材活用と森林管理に取り組むことを宣言しました。2011年にスタートした「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」では、区内の建物への国産木材の使用を働きかけています。

港区の生物多様性地域戦略

「全ての生命の多様さとそれらのつながり」のことを生物多様性といいます。しかし近年、その一員である人間の活動の影響で、この「つながり」が弱くなってきています。港区では、生物多様性がもたらす恵みを未来に引き継ぐため、区民や企業などと協力し合って2014年3月の「港区生物多様性地域戦略」完成を目指しています。